

双葉町に樹脂新工場 復興産業拠点 防災など活用期待 企業立地協定 / 福島

地域 | 福島 | 東北

毎日新聞 | 2025/7/12 地方版 有料記事 616文字



ポリウレアを使用した災害シェルターの前に立つライノジャパン社の緒方修一社長＝双葉町役場で2025年7月7日、田倉直彦撮影

急速に硬化させることができる樹脂化合物「ポリウレア」の販売などを扱うライノジャパン社（東京都）は、双葉町中野地区の復興産業拠点に新工場を建設する。7日、双葉町との間で企業立地協定を結んだ。同社によるとポリウレアは硬化しても伸張する柔軟性があるため衝撃を吸収し、強度が高い。防水性や耐久性などに優れ、防災分野でも活用される。来年9月頃に完成予定の新工場ではポリウレアを活用した災害用のシェルターなどの製造も見込んでいる。

同社は米国ライノライニングス社製のポリウレアの総販売元。ポリウレアは対象物に吹き付けるコーティング材で秒単位で硬化する。国内では木造住宅の耐震補強や、道路の橋りょうの補修に使われるなどしているという。



締結した企業立地協定書を手にする伊沢史朗・双葉町長（左）とライノジャパン社の緒方修一社長＝双葉町役場で2025年7月7日、田倉直彦撮影

発泡スチロールに製品を塗布し、災害用のシェルターにも使われる。大阪・関西万博では家屋内の設置を想定した高さ約2メートル、重さ約60キロの球状の1人用シェルターを展示。強度がある上、防音性も高いという。

新工場の敷地は約5000平方メートル。年に約70トンのポリウレアを生産する予定で、タイやベトナムなど東南アジア向けにも製造を拡大するという。

伊沢史朗・双葉町長は「国内でインフラの老朽化対策の需要は多く、ポリウレアを町から供給することで、対策の一助となつてほしい」と期待を込めた。同社の緒方修一社長は「操業開始後は国内から世界へと販路を拡大し、雇用面も含め、双葉町の復興に貢献したい」と話した。【田倉直彦】